

人生の目的

コリント人への手紙第一 10章 31節

はじめに

毎年5月の第一主日は「日本長老教会設立記念礼拝」として定められています。日本長老教会は、1993年の5月3日に設立しましたので、今年で設立30周年を迎えます。先々週、私たちの教会は創立31周年記念礼拝を行いました。私たちの教会は、創立当初、単立教会として始まりましたが、創立の翌年に日本長老教会が設立しましたので、日本長老教会に加入させていただきました。ですから私たちの教会は、単立教会時代はわずか1年で、30年は日本長老教会として歩んできているわけです。

日本長老教会は、日本基督長老教会と日本福音長老教会が合同してできた教会です。日本基督長老教会も日本福音長老教会も、戦後にできた教会です。私や寿夫牧師は、日本福音長老教会の流れを汲む牧師たちです。その意味では、現在のさがみの教会は、日本福音長老教会の伝統に色濃く影響を受けた教会と言えます。

さて今日は、聖書から人生の目的について学びたいと思います。私たちは教会に出会って、人生は大きく変わったと思います。私たちは、生きる意味をもう一度、聖書から学びたいと思います。

1. 神のうちに人生の目的を見出す

私たちは誰でも、自分の意志で生まれてきた人はいません。何年何月何日に生まれるという計画を自分で立てて、この世に生まれてきた人は誰もいません。私たちは誰でも、自分の意志とは無関係に、この世に生まれてきました。

私たちがこの世に生まれてきたこと背景には、親の存在があります。父と母が愛し合っていて、私たちが生まれることを願って、私たちは生まれてきました。中には望まない妊娠によって生まれた人もいます。

しかし命は、人が造り出せるものではありません。どんなに愛し合っても、子どもを授からない夫婦がいます。また人は性的な関係を持ちますが、なぜ命という複雑なものが宿るのか、そのことの詳細は分かりません。それは神秘と言うほかありません。どんな有能な医者でも命を永遠に生かすことはできませんし、一度死んだら、命を回復させることもできません。

人の命は、人間がコントロールできるものではありません。人の命は、神様の領域に属するものです。人の命は、神様によって与えられるものです。私たちは誰でも、神様によって命を与えられ、この世に生まれてきたのです。

しかし私たち人間は、アダムとエバが神様の命令に背いて、禁断の木の実を食べた時から、神様との交わりを失い、罪の性質をまとって生まれてくるので、聖書を通して正しく神様のことを教えられない限り、自分が神様によって命が与えられたことや自分が何のために存在し、何のために生きるのかが分からなくなってしまいました。

私たちは誰でも、自分で目的をもって、また計画をもってこの世に生まれてきた人はいません。私たちは物心ついた時にはすでに、この世に生まれていたのです。そこで、それぞれが人生の途中で、自分の存在の意味を見出し、人生の目的を見出して生きているのです。中には、自分の存在の意味や人生の目的を見出せずに、無気力になったり、自らの命を絶つ人もいます。

しかし私たちに命を与えてくださった神様には、私たちの存在の意味や目的、私たちそれぞれの人生の計画を持っておられます。私たちは、私たちに命を与えてくださった神様に、私たちの存在の意味や目的、人生の計画を求めるならば、それを見出すことができるのです。

2. 神の栄光を現わす

神様は、神様の言葉である聖書を通して、人間の存在の意味や目的を語っておられます。今日の聖書箇所には、「**あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現わすためにしなさい**」とあります。ここには、「何をするにも、すべて神の栄光を現わすためにしなさい」とあります。つまり、食べるにも、飲むにも、服を着るにも、寝るにも、学校に行くにも、友達と遊ぶにも、仕事に行くにも、結婚するにも、子育てするにも、人生のすべてにおいて、神様の栄光を現わしなさいと言われているのです。その意味で、私たち人間の存在の意味や目的は、一言で言って「**神様の栄光を現わすこと**」と言えるのです。

私たち日本長老教会の信仰基準である「ウェストミンスター小教理問答」には、「**人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである**」と告白されています。

神様は、世界と人間を造られた方です。神様によって造られたものはすべて、神様の栄光を現わすために存在しています。使徒パウロは、ローマ 1：20 でこのように言っています。「**神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はありません**」。

「神様の栄光を現わす」とは、神様の性質を現わす、神様の存在を現わすと言えます。神様は、御自身が造られたすべてのものを通して、御自身の性質と存在を現わしているのです。旧約聖書の詩篇 19：1 には、「**天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる**」とあります。神様が造られた自然は、神様の性質と存在を現わしているのです。

私たち人間は、特別に「神様のかたち」に造られました。創世記 1：27-28 にはこのようにあります。「**神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に**

満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ』。

私たち人間は、特別に「神様のかたち」に造られて、人格を持ち、神様との交わりに生きる存在として造られました。そして神様に代わって、神様が造られたすべての物を治め、管理し、発展させ、文化と歴史を造る使命を与えられました。そのためにこそ私たち人間は、労働（仕事）をし、家庭を形成していくのです。

「ウェストミンスター小教理問答」には、「**神は、その存在、知恵、力、聖、善、真実において無限、永遠、不変の霊である**」とあります。「神様のかたち」に造られた私たち人間は、特に神様が人格を持った方であることを証し、現していく使命を与えられています。神様の知恵や力、聖さや正義、真実さや愛、恵みを私たちの言葉や行いを通して証し、現していかなければなりません。

「神様の栄光を現わす」というのは、私たちの存在や言葉や行いを通して、神様の存在や性質や人格を鏡のように映し出すということです。私たちを見れば、神様の存在や性質や人格が分かる、そういう存在として私たちは造られ、生かされているのです。

3. 自分の栄光を現わすようになった人間

しかし私たち人間は、アダムとエバが神様の命令に背いて、禁断の木の実を食べた時から、神様との交わりを失い、罪の性質をまとって生まれてくるようになりました。「罪」とは、「神様の律法」に背くことです。神様の律法の中心は、神様を愛し、人を愛することです。しかしアダムとエバが神様の命令に背いて以来、私たち人間は、神様を愛さず、人を愛さず、ただ自分だけを愛する、自己中心の性質に支配されるようになってしまったのです。そのため、私たち人間の存在の意味や目的は、神様の栄光を現わすよりも自分の栄光を現わすようになり、神様を喜ぶよりも自分を喜ばすものになってしまったのです。

そのため人生の意味や目的は、自分の幸せとなり、自分が仕事や家庭で成功して地位や名誉を得ること、自分が人々から愛され、認められることになってしまったのです。

このような自己中心の人生の結末は、どのようなものでしょうか。聖書には、「**罪の報酬は死です**」(ローマ 6:23)とあります。神様の栄光を現わさず、自分の栄光を現わし、神様を喜ぶよりも自分を喜ばせて生きた人生の結末は、「死」なのです。つまりそれは、神様の怒りと呪いの下に置かれ、神様の裁きを受けるということです。この世でのあらゆる悲惨と、肉体の死と、永遠の地獄の刑罰です。

これが生まれながらの私たちすべての人間が辿る人生であり、その結末と言えます。

4. イエスによる人生の回復

しかし神様は私たちを、本来の人間のあるべき姿に回復するために、神の子であるイエス様をこの世に遣わされたのです。イエス様は、人となって、神様の栄光を現わし、神様を喜ぶ人生を歩まれました。ヘブル 1:3 に、「**御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れ**」とある通りです。イエス様はその生涯において、神様の存在や、知恵や力、聖さや

正義、真実さや愛、恵みを、言葉や行いを通して証しされました。まさに、イエス様を見れば、神様の存在や性質や人格が分かる、そのように神様を鏡のように映し出す人生を歩まれました。イエス様こそ、私たち人間の本来あるべき姿を歩まれた方でした。

そして私たちの罪を償い、神様と私たちとの交わりを回復させるために、十字架に架かり復活されました。十字架と復活においてこそ、神様の愛や恵み、知恵や正義、真実さが最も豊かに現わされたのです。

5. 人生を回復するには

私たちが本来の人生を回復するためには、イエス様を信じなければなりません。イエス様を信じて神様との交わりを回復しなければなりません。イエス様は、神様と私たち人間の仲介者です。イエス様は私たちのすべての罪を償ってくださいました。私たちは、自分の罪を認めて悔い改め、イエス様を神の子、救い主として信じ受け入れる時、新しい命を与えられ、新しい人生を歩むことができるのです。自分の栄光を現わし、ただ自分を喜ばせて生きる人生から、神様の栄光を現わし、神様を喜ぶ人生へと変えられるのです。それは、本来の私たち人間のあるべき姿の回復です。

イエス様は、最も豊かに神様の栄光を現わし、神様を喜んで歩まれた方です。私たちは、イエス様のように歩む時に、神様の栄光を現わし、神様を喜んで歩むことができるのです。それは、イエス様の「弟子」として歩むということでもあります。それは、イエス様の模範に倣い、イエス様の教えを守り行っていくということでもあります。

しかし私たちは、自分の力でイエス様のように神様の栄光を現わして生きることはできません。パウロはこのように言いました。「**私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです**」(IIコリント 3:18)。イエス様を信じる私たちには、イエス様の霊である聖霊が共にいてくださいます。その聖霊が私たちをイエス様のように変え続けてくださり、私たちが神様の栄光を現わせるように導いてくださるのです。

私たちは、イエス様を信じてもお罪の性質を完全に拭き切ることにはできません。ですから今もお、神様の栄光よりも自分の栄光を求めたり、神様を喜ぶよりも自分を喜ばせることを求めたりしてしまいます。しかし聖霊が、特に御言葉を通して、私たちを日々変え続けてくださり、少しずつイエス様の姿に近づくことができるのです。そしてIヨハネ 3:2に、「**私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることを知っています**」とある通り、イエス様がこの地上に再び来られる世の終わりの時に、私たちは完全にイエス様に似た者とされ、完全に神様の栄光を現わし、完全に神様を喜ぶ者とされるのです。

おわりに

私たちの人生には、二つの生き方があります。自分の栄光を現わし、自分を喜ばせて生きるか、それとも神様の栄光を現わし、神様を喜んで生きるか、です。私たち人間は、神

様のかたちに造られ、神様の存在や性質を現わして生きる使命、神様が造られたすべての物を治め、管理し、発展させ、文化と歴史を造る使命を与えられました。そのために私たちは、仕事をし、家庭を形成します。私たちの人生には、食べる、飲む、服を着る、寝る、学校に行く、友達と遊ぶ、仕事に行く、結婚をする、子育てをするなど様々な営みがあります。しかしそれらを自分の栄光のためにやるか、神様の栄光のためにやるかで、人生は大きく変わってきます。私たちクリスチャンは、何をするにも神様の栄光を現わすためにするのです。私たちの人生のすべてにおいて、神様を映し出して生きるのです。それこそが、私たち人間の本来の生き方であり、私たちの命が最も輝く生き方なのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちはあなたによって命を与えられ、今生かされています。人の命はあなたの御手の中にあります。私たちは、与えられた命をどのように生きたらよいのでしょうか。私たちは、あなたの栄光を映し出すために生かされています。しかし今まで、自分の栄光のために、人生を生きてきたことを悔い改めます。

どうか私たちを聖霊によって新しい命、新しい人生に生かしてくださり、イエス様の弟子として、私たちを日々イエス様の姿へと変え続けてくださり、神様の存在や性質を映し出して生きることができるよう導いてください。

私たちがどんな仕事をして、どんな生活の小さなことでも、自分の栄光のためにではなく、神様の栄光のためにすることができるよう導いてください。

この祈りを栄光の主であるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。